

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果の分析

逗子市立久木中学校

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

全国・県と比較して $\pm 5\%$ の差が見られる内容について中心に分析し、自校の指導計画や授業づくりに活用してください。

【 国語 】

《言葉の特徴や使い方に関する事項》

○すべての問いについて、県・全国と比較して正答率が高い傾向にある。漢字の読み取りや、事象や行為を表す語彙を認識する知識は身についているとみえる。

《話すこと・聞くこと》

○すべての問いについて、県・全国と比較して正答率が高い傾向にある。資料問題や論説文での読み取りの力はついてきた。

●小説文などの心情の読み取りから自分の考えを表現できるような力を身に着けたい。自分の考えを踏まえ、相手との交流を経て、考えや知見を広められる授業を展開したい。

《書くこと》

○すべての問いについて、県・全国と比較して正答率が高い傾向にある。根拠を明確にして書くことや内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えることができている。

●読み手の立場になって事象を考えることは苦手としている。読み手同士の意見交流や対話を経て力を身につけさせたい。

《読むこと》

○すべての問いについて、県・全国と比較して正答率が高い傾向にある。書くことに付随して根拠を明確にして考えることができている。

《生徒質問紙 国語に関する質問》

生徒は国語の学習を将来社会に役に立つと感じながら授業を受けているという前向きなアンケート結果が出た。どの単元でも継続してこの意欲で学習できるようにしていきたい。

【 数学 】

《数と計算》

●全体を見て、1・2年の知識を問われる問題の正答率が低いと分析される。問題番号1の素数を問う問題は、1年生の知識であるが、本校と全国と比べて低い。2年生では、ほとんど素数は扱わず、3年の平方根に入り、素因数分解を利用するので復習はされるが、定着はされるようどの単元でも扱う必要がある。このほかにも、自然数や整数など知識が必要な問題があるので、都度細かく説明していく。

《図形》

○図形は、2年生で学習した内容が多く正答率が県・全国と差がなかったが、証明問題では、それと同数程度無回答があることが課題である。

《関数》

●変化の割合など知識を問われる正答率が低い。3年生でも関数で変化の割合は問われる問題が出てくるので、そこでよく復習する。

《データの活用》

○確率の問題については、正答率が高い。直近で学習した内容で、身近なじゃんけんを題材にした問題だったので、生徒は考えやすかったのだと分析する。

●相対度数という、知識を問われた問題の正答率が低い。また合わせて、無回答である生徒も多かった。

《生徒質問紙 算数に関する質問》

●数学で学習した内容を普段の生活で生かすことができているかという質問に対しては、半数以上が生かすことができていると回答している。数学を実生活で生かす場面はなかなかないので、数学的な考え方が生かされていることは話していきたい。

【 理科 】

《「エネルギー」を柱とする領域》

音の性質や回路図の抵抗等基本的な知識を問う問題は学校内でも全国を見ても正答率が高くなっていた。しかし、既存の知識を活用し、生徒の思考力を問う問題では正答率が低い傾向にあった。特に音の実験の条件を変える問題の正答率が低かった。授業内で指示された実験をする経験しかないので、結果や考察から新たな実験を立案するような思考力をのばす授業展開を取り入れていきたい。

《「粒子」を柱とする領域》

塩素の元素記号を問う問題の正答率が低かったことが課題として挙げられる。第2学年化学で学習済みであるが、約1年化学に触れていないため知識が薄れていると考えられる。第3学年化学でもイオンにおいて必要になるので、復習が必要。

《「生命」を柱とする領域》

全体的に正答率が低い結果になっていた。基礎的な知識を問う問題の解答では、県・全国と比較し、やや低い結果となった。全体的に授業で扱った内容を復習するなどの日常的な学習が定着しているとは言い切れない結果となったことが課題である。

《「地球」を柱とする領域》

地層の構造など、目には見えない部分を空間的に見る力などが身につけていない傾向にあった。地学では、スケールが大きく生徒の頭の中でイメージしにくい分野であるので、授業内ではICTなどを活用し、教室内で可視化する工夫が必要であると考ええる。

《生徒質問紙 理科に関する質問》

理科という教科に対しては好きである、得意であると回答する生徒が過半数にのぼっていた。身近な生物や自然現象に対して興味を持っている生徒が多く、比較的前向きに取り組んでいると考えられる。しかし、理科が日常にいきているか、将来理科に関する職業に就くかなどの質問に対しては否定的な回答が多かった。授業の実験や導入などによって、日常と学習内容の関連付けをし、より身近に感じてもらう工夫が必要になると考えられる。

◎生徒質問紙の結果 特徴的なことや課題と考えられること等

- 朝食は、食べる。
- 自然の中で遊んでいる。
- 自分には良いところがあると思っている生徒が県・全国平均に比べ多い。
- 人の役に立ちたいと思っている生徒が多い。
- 組み立てを考えながら話をできていると感じる生徒が多い。

●話し合いでまとめる力に不安を感じている

●ICT を適切に使えているか不安

自分の良さを生かして、人の役に立ちたいと思っている生徒が多い。話をするとき組み立てを考えながらできる。しかし、その内容を深めるために、ほかの人と話し合いをしたり、ICT を活用したりすることがうまくできていないと感じたりしている生徒が多い。

◎調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと

- ◎ 自分の考えを話したり、まとめたりする表現できる力を身に着けることができるよう、授業内の工夫として、互いに自分の考えを発表し合う場面を多く取り入れるようにする。そのような活動を行うために、伝えたい情報を整理することや伝えたいことに優先順位を決めるなど、伝えたい事柄の精選を行なえるようにして、書く・まとめるといった力を伸ばしたい。
- ◎ 聞き手として他者の発表を通して学んだことや良かったところを発表者に返すことにより、互いに育ち合う関係を築く。そうすることで、仲間との協同を経て、自分の考えや知見を広められる。
- ◎ 同様に、自分の考えを書き説く問題について無回答の生徒がいたことから、問題を解くプロセスをどのように表現すればよいのか、類似した問題を設定し、最後までまとめきれないとしても、どこまでわかっていて、どこからわからないのかを明らかにする反復を行うことで、解答につながる手順が学べ、順序を整理し、考えを他者にも伝わると考える。
- ◎ 豊かな考察力を身に付けるためには、豊富な実験経験が必要と考える。現在のところ、限られた実験経験しかないので、わかっている事柄から結果を想像したり、考察したりすることが不足していると感じる。新たな実験を立案したり考察したりする活動を通して、思考力をのばす授業展開を取り入れていきたい。
- ◎ 自分の考えについて発表し合う活動を通して、自分の良さを認識しつつ、人の意見をうまく取り込む力をつけたりすることで、より自分や仲間と互いを高め合えることを意識できるようにする。
- ◎ 情報活用の場面では、調べたい内容についてより具体的にまとめること、正確かつ適切な情報を取捨選択することが、これからの先の見えない世の中を生きていくために必要である。様々な例を提示することで、善悪や他者への思いやりなど考えを深めたり、広げたりすることに繋げたい。